

2

握手 井上ひさし
 (「評価しながら聞く」「季節のしおり 春」を含む)

教科書 p.14 ~27

漢字の学習

次の線部の言葉の漢字は読み方を書き、カタカナは漢字で書きなさい。

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|------------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|----------------------------------|-------------------------------------|----------------------------------|-----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> (37) カカげる… | <input type="checkbox"/> (35) 紙をハる… | <input type="checkbox"/> (33) バクハツ… | <input type="checkbox"/> (31) ツブれる… | <input type="checkbox"/> (29) スリ傷… | <input type="checkbox"/> (27) エンピツ… | <input type="checkbox"/> (25) ヤツカイ… | <input type="checkbox"/> (23) プンカツ… | <input type="checkbox"/> (21) ドロ… | <input type="checkbox"/> (19) 代物… | <input type="checkbox"/> (17) 腫瘍… | <input type="checkbox"/> (15) 百姓… | <input type="checkbox"/> (13) 捜査… | <input type="checkbox"/> (11) 傲慢… | <input type="checkbox"/> (9) 監督… | <input type="checkbox"/> (7) 爪先… | <input type="checkbox"/> (5) 鶏(訓読み) | <input type="checkbox"/> (3) 穏健… | <input type="checkbox"/> (1) 洗濯… |
| <input type="checkbox"/> (38) サビしい… | <input type="checkbox"/> (36) ギシキ… | <input type="checkbox"/> (34) ノウリ… | <input type="checkbox"/> (32) キミョウ… | <input type="checkbox"/> (30) セイを出す | <input type="checkbox"/> (28) ヒジ… | <input type="checkbox"/> (26) ムジャキ… | <input type="checkbox"/> (24) アクシユ… | <input type="checkbox"/> (22) ジョウダン | <input type="checkbox"/> (20) 遺言… | <input type="checkbox"/> (18) 葬式… | <input type="checkbox"/> (16) 一周忌… | <input type="checkbox"/> (14) 姓名… | <input type="checkbox"/> (12) 捜す… | <input type="checkbox"/> (10) 帝国… | <input type="checkbox"/> (8) 開塾… | <input type="checkbox"/> (6) 爪(訓読み) | <input type="checkbox"/> (4) 鶏舎… | <input type="checkbox"/> (2) 穏やか… |

言葉の学習

1 対義語 次のそれぞれの□に漢字一字を入れて、対義語を完成させなさい。

- (1) 平凡 ⇄ □ 凡 □ (2) 謙虚 ⇄ □ 慢

2

語句の意味 次のそれぞれの語句の意味として正しいものを、あとから一つずつ選び、記号で答えなさい。

- (1) 「達者」
 ア 若い。 イ 男らしい。 ウ 上手だ。 エ 立派だ。 □
- (2) 「年季が入る」
 ア 何度失敗しても屈せず立ち上がる。 イ 数をこまかして得をしようとする。 ウ すっかり古くなって今の時代に合わない。 エ 長い間修行を積んで腕が確かである。 □
- (3) 「気前がいい」
 ア 過ぎたことにこだわらず、常に前を向くさま。 イ お金や物に執着しないで、さっぱりしているさま。 ウ 人を見下して、失礼な発言や態度を繰り返すさま。 エ どんな仕事にも文句を言わず根気よく働くさま。 □
- (4) 「地道」
 ア まじめで着実なこと。 イ 常識がなくおろかなこと。 □
 ウ 服装や性格が質素なこと。 エ 融通の利かないこと。 □

学習のポイント

この小説は、「わたし」とルロイ修道士がレストランで交わす会話の中に、過去の出来事を回想として挿入していく形で、物語が展開していく。

物語は、中学三年から高校を卒業するまでを児童養護施設である光ヶ丘^{ひかりがき}天使園で過ごした「わたし」の視点から描かれている。

回想として語られるエピソードやルロイ修道士の指によるサインに注意しながら、ルロイ修道士の人柄や「わたし」との関係などを読み取っていきよう。

主な登場人物

◆「わたし」：語り手。「天使園」で育ち、おそらくは現在は東京で仕事をしている。

◆「ルロイ修道士」：仙台にある児童養護施設「天使園」の園長で、カナダ人。

物語の構成

第一のまとまり：教初め〜14 P 10 ㉔

・二人の再会の場面。

第二のまとまり：教14 P 11 ㉔〜22 P 19 ㉔

・ルロイ修道士の人となりの説明。

・ルロイ修道士と「わたし」との会話。

・今と過去との時間が交錯する中で、「天使園」でのエピソード。(出会い、他の園児のその後、など)

第三のまとまり：教22 P 20 ㉔〜最後

・ルロイ修道士の葬式と、まもなく一周忌の「現在」(葬式から一年後)。

読解のポイント

■「握手」という題名のもつ意味を考えよう。

●最初の「握手」(回想)……「万力^{まうりき}よりも強く、しかも腕を勢いよく上下させるものだから、こっちのひじが机の上に立ててあった聖人伝にぶつかって、腕がしびれた。」

●再会の「握手」……「実に穏やかな握手だった。ルロイ修道士は病人の手でも握るようにそつと握手をした。」

●最後の「握手」……「(わたしは)しっかりと握った。それでも足りずに、腕を上下に激しく振った。」ルロイ修道士は顔をしかめてみせた。」

「握手」によって、ルロイ修道士の愛情や、互いの心の交流が表現されるとともに、ルロイ修道士の体調の変化をも暗示している。

*「評価しながら聞く」(教26 P)

自分の考えと比較したり、表現や内容に気をつけながら話を聞こう。

*「季節のしおり 春」(教27 P)

春についての言葉や歌・詩を味わおう。

ポイント チェック 次の空欄にあてはまる言葉を書き入れよう。

この物語は、「①」が、恩師 ②と再会し、過去の出来事を ③する形で展開する。物語には三度の

④の場面が見られるが、ここに、ルロイ修道士の子供たちへのや、彼の ⑤の変化を読み取ることができる。

演習問題

1

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。



□ (1) 線①「彼のてのひらはもうギチギチとは鳴らない。あの頃はよく鳴ったのに」とありますが、ルロイ修道士のてのひらが「あの頃はよく鳴った」のはなぜですか。その理由について説明した次の文の①・②に入る適切な言葉を、①は七字、②は三字で、本文中から書き抜いて答えなさい。
 ① を作るために働いていたので、② でも張ったように固かったから。

①	
②	

□ (2) 線②「ルロイ修道士の奇妙な爪」とありますが、彼が「奇妙な爪」になった理由について説明した次の文の①・②に入る適切な言葉を、①は二字、②は三字で、本文中から書き抜いて答えなさい。

① ②
 〈日本とアメリカの①中に、日本人の②によって爪を潰されたから〉

②	
①	

□ (3) 線③「こんなうわさが流れていた」とありますが、この「うわさ」の中で、子供たちは、ルロイ修道士が日本人に対してどのような感情を抱いていると想像していますか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。
 ア 心の底では日本人に好意をもっている。
 イ 心の底では日本人に不信任を抱いている。
 ウ 心の底では日本人を憎んでいる。
 エ 心の底では日本人に感謝している。

--

(教 16 ~ 18 P)

(4) 線④「うわさ」について、次のそれぞれの問いに答えなさい。

① この「うわさ」の内容を説明した次の文の□に入る適切な言葉を、「元」という言葉を用いて、簡潔に書いて答えなさい。

ルロイ修道士は、天使園の子供を育ててアメリカのサーカスに売り、

□。

② この「うわさ」が立ち消えになった理由として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア うわさをしていることがルロイ修道士に知れると叱られてしまうから。
イ ルロイ修道士の優しさが心の底からのものであると子供たちが理解したから。

ウ ルロイ修道士が全く取り合ってくれず、続けていてもおもしろくなかったから。

エ 人のうわさをするのが当たるといふルロイ修道士の教えを思い出したから。

(5) 線⑤「日本人とかカナダ人とかアメリカ人といったようなものがある

と信じてはなりません」とありますが、この言葉でルロイ修道士が伝えようとしたのはどのようなことですか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 「わたし」一人が謝っても、ルロイ修道士の恨みは消えないということ。

イ 日本人の誰一人として戦争責任を感じる必要はないということ。

ウ 人間を人種や国籍で判断してはいけないということ。

エ 戦争になれば敵を憎むのはやむを得ないということ。

演習問題 2

● 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。



□(1) 線①「はてなと心の中で首をかしげた」とありますが、「わたし」が「首をかしげた」理由を、「ことに気がついたから。」に続く形で、本文中から二十四字（読点も字数に数えます）で書き抜いて答えなさい。

ことに気がついたから。

□(2) 線②「ルロイ修道士は悲しそうな表情になって」とありますが、その理由として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。
 ア「わたし」が予想外に悪い子だったと知ったから。
 イ自分はひどい仕打ちをしたと、心が責められたから。
 ウ「わたし」に憎まれているのではという疑いが起きたから。
 エ もう二度と平手打ちができなくなると思ったから。

□(3) 線③「こたえましたよ」とありますが、何がこたえたと言っているのですか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。
 ア 一月間、ルロイ先生が口をきいてくれなかったこと。
 イ 大切な靴下や下着を売ってしまったこと。
 ウ 無断で天使團を抜け出したこと。
 エ 東京まで捜しに来られたこと。

18 ~ 20 P

④ 線5 「……」の部分に省略されていると考えられる言葉を、十五字以

内（読点も字数に数えます）で書いて答えなさい。

⑤ 線6 「両手の人さし指を交差させ、せわしく打ちつける」とあります

が、このルロイ先生のしぐさの意味について説明した次の文の①・

②に入る適切な言葉を、①は八字、②は四字で、本文中から書き抜いて

答えなさい。
（内心で①とどなっていることを意味する、②である。）

	①								
②									

⑥ 線6 「顔は笑っていた」とありますが、このときのルロイ修道士の説

明として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 今も怒っていることを悟られまいと、作り笑いをしている。

イ 「私」の幼稚さにあきれ、あざ笑う気持ちになっている。

ウ 「私」の話の意外な展開に驚き、面白いと思っている。

エ 過去の出来事を懐かしみ、愉快な気分になっている。



まとめの問題 **A**

● 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。



まるでルロイ修道士が

- (2) ※ に入る最も適切な言葉を、本文中から二字で書き抜いて答えなさい。

--

- (3) 線②「日本でお暮らしになっていて、楽しかったことがあったとすれば、それはどんなことでしたか」とありますが、「わたし」のこの質問に対して、ルロイ修道士は、それはどのようなときだと答えていますか。書いて答えなさい。

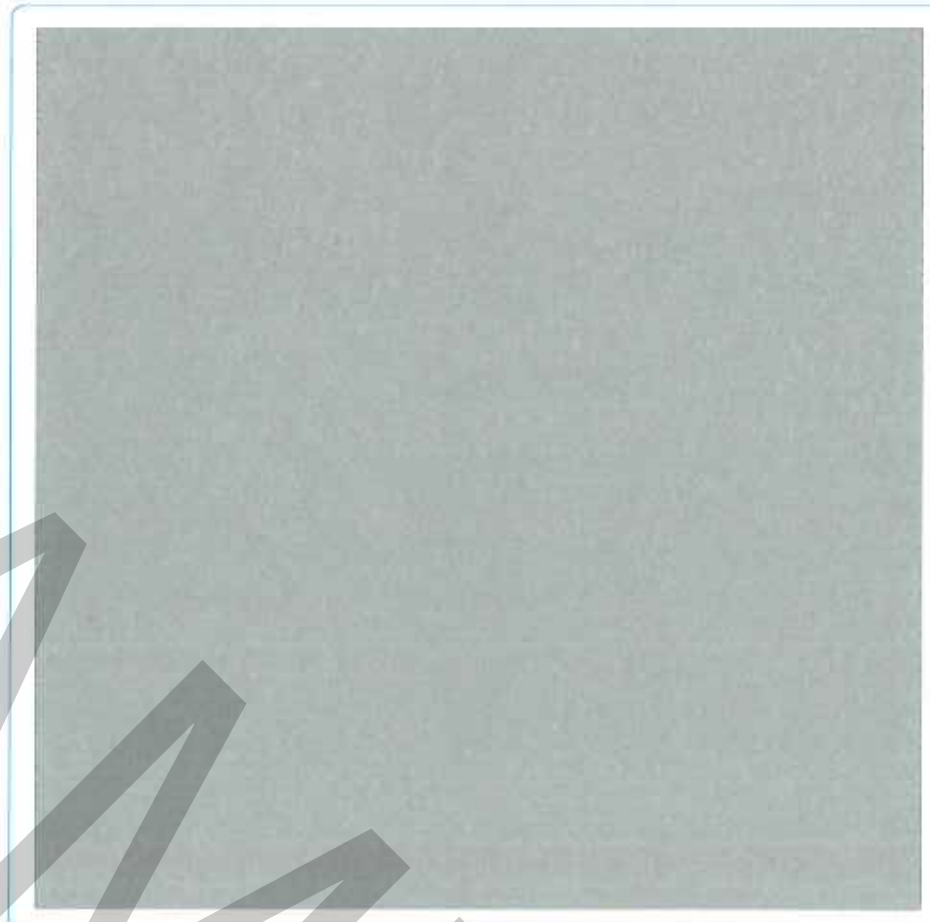
--

- (4) 線③「先生は重い病気にかかっているでしょう、うさすがにそれははばかられ、結局は、平凡な質問をしてしまった」とありますが、その理由として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

--	--	--

- ア 先生を病人扱いするのは失礼だと思ったから。
 イ 事情を迫及して先生を困らせたくなかったから。
 ウ ほかにもっと聞きたいことがあったから。
 エ 先生に怒られるのが怖かったから。
- (5) 線④「忘れるわけではないのですが、「わたし」が上川一雄君の名前を忘れていないのはどうしてですか。その理由を「天使園」「姓名」という言葉を用いて、書いて答えなさい。

--



(20~22 P)

□ (1) 線 ①「冗談じゃないぞ、と思った」とありますが、このとき「わたし」はなぜこのように思ったのですか。「まるでルロイ修道士が」に続けて書かなくてもいい。

□ (6) 線 ⑤「いっとう悲しいときは……?」とありますが、この「わたし」の質問に対して、ルロイ修道士はどのように答えていますか。四十字程度(句読点も字数に数えます)で書いて答えなさい。

□ (7) 線 ⑥「なにも、父子二代で天使園に入ることはないんです」とありますが、この言葉に表れているルロイ修道士の気持ちとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 子供にまで、家族と離れて暮らす不幸を味わわせてほしくない。
- イ 孤児院はほかにあるのだから、必ずしも天使園に来ることはない。
- ウ 子供が増えて、天使園で十分な養育ができなくなるのは困る。
- エ 老後は、不幸な子供から目をそらして生きていきたい。

--

まとめの問題 B

● 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。



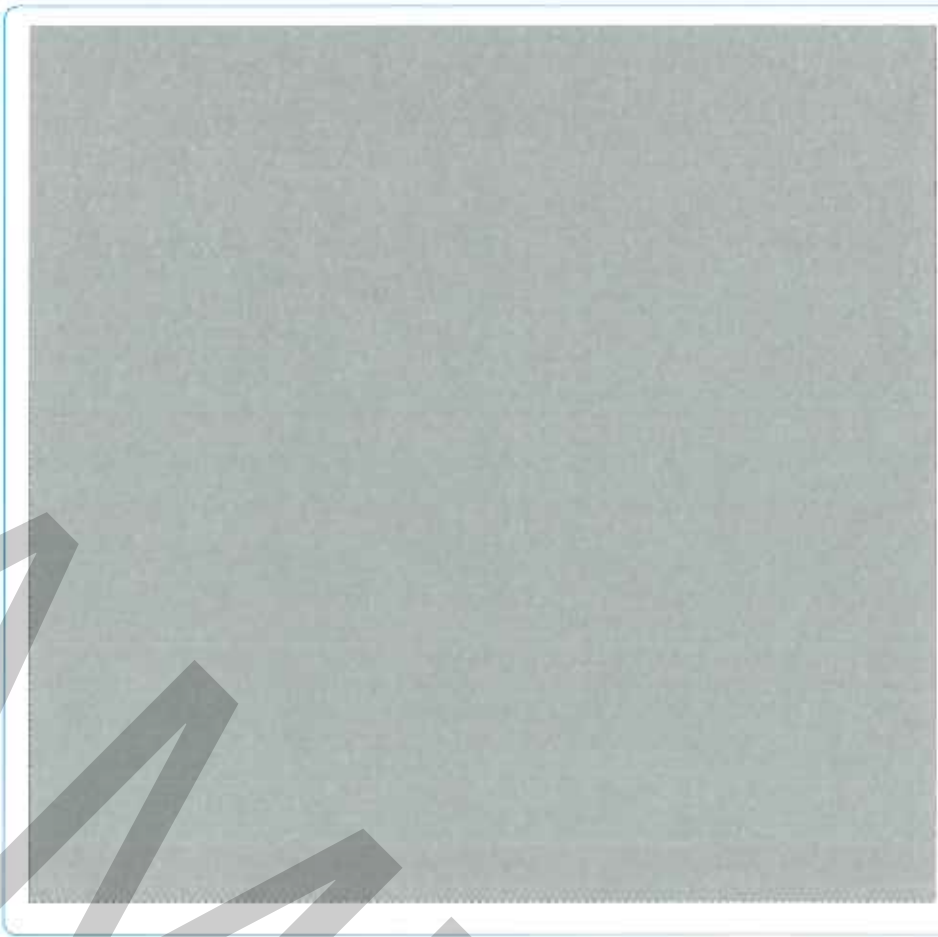
(2)

線④「ルロイ修道士は悲しそうな表情になって」とありますが、このときのルロイ修道士の思いを、三十字以内（句読点も字数に数えます）で書いて答えなさい。

20

(3)

線⑤「ぶたれてあたりまえの、ひどいこと」とは、具体的にどのようなことですか。四十五字以内（句読点も字数に数えます）で書いて答えなさい。



教 18 ~ 20 P

□ (1) 線① 「一度だけ、ぶたれました」とありますが、このとき「わたし」が初めに思い出したルロイ修道士の姿とその姿が示す思いを、三十字程度（句読点も字数に数えます）で書いて答えなさい。

□ (4) 線④ 「平手打ちよりこっちのほうがこたえましたよ」とありますが、

このときの「わたし」の気持ちを、「ひどいことをしたので、」に続けて、五十字以内（句読点も字数に数えます）で書いて答えなさい。ひどいことをしたので、

□ (5) 線⑤ 「ただしあの頃と違って、顔は笑っていた」とありますが、この

ときのルロイ修道士の様子を、「昔のことを」という形で三十字以内（句読点も字数に数えます）で書いて答えなさい。

□ (6) 線⑥ 「だったらいいのですが……」という言葉の奥に隠された気持ちを、

二十字以内（句読点も字数に数えます）で書いて答えなさい。

14

故郷 魯迅
 「聞き上手になろう」「論理の展開を整える」を含む

教科書 p.98 ~116

漢字の学習

次の線部の言葉の漢字は読み方を書き、カタカナは漢字で書きなさい。

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|-------------|------------|-------------|--------------|-------------|-------------|--------------|-------------|-----------|-----------|-----------|------------|-----------|------------|-----------|--------------|----------|----------|
| □ (37) ノホウズ | □ (35) プツソウ | □ (33) おジギ | □ (31) アザケ | □ (29) 椅子のアシ | □ (27) コウジツ | □ (25) ノド | □ (23) キユウレキ | □ (21) 結わえる | □ (19) 麻糸 | □ (17) 慕情 | □ (15) 旦那 | □ (13) 乏しい | □ (11) 塗装 | □ (9) 板塀 | □ (7) 溺れる | □ (5) 艶(訓読み) | □ (3) 雇う | □ (1) 閑散 |
| □ (38) グウンゾウ | □ (36) チンモク | □ (34) ヤセ | □ (32) カケメグ | □ (30) サゲスむ | □ (28) カンタカ | □ (26) イツキョ | □ (24) シンセキ | □ (22) 財布 | □ (20) 崇拜 | □ (18) 麻酔 | □ (16) 慕う | □ (14) 駄賃 | □ (12) 貧乏 | □ (10) 塗り絵 | □ (8) 家畜 | □ (6) 溺愛 | □ (4) 雇用 | □ (2) 紺色 |

言葉の学習

語句の意味 次それぞれの語句の意味として正しいものを、あとから一つずつ選び、記号で答えなさい。

- (1) 「込み上げる」
 ア 内側へ入りこんで、目に見えなくなる。
 イ いっぱいになって、あふれ出そうになる。
 ウ どんどん集まってきた、混雑する。
 エ 何度も試して、とうとう完成させる。
- (2) 「はにかむ」
 ア 褒めたたえる。 イ 昔のことを懐かしく思う。
 ウ 恥ずかしがる。 エ 叱られて下を向く。
- (3) 「物騒」
 ア 強い態度で自分の考えなどを曲げない様子。
 イ 細かい点まで手落ちなくきびしく行う様子。
 ウ 心身ともにすこやかで異常のない状態。
 エ いつ何が起こるか分からない危険な状態。
- (4) 「やるせない」
 ア くるしい イ せつない ウ 重々しい エ だるい
- (5) 「不服」
 ア 不満 イ 不足 ウ 無能 エ 非常識

□ □ □ □ □

学習のポイント

この小説は、大きく分けて六つの場面から成り立っている。

第一の場面では、二十年ぶりに故郷へと帰る「私」の心情が、第二の場面では、「我が家」に戻った「私」が母と甥のホンルに出迎えられた様子が描かれている。続く第三の場面では、ルントウとともに過ごした幼き日の思い出が、第四・第五の場面では、ヤンおばさん、そしてルントウとの再会の様子が、そして最後の第六の場面において、故郷を旅立つ「私」の心情が描かれている。

心情を表す言葉や人物の描写に着目しながら、物語の主題を読み取っていきましょう。

主な登場人物

◆「私」：現在の場面での語り手。

◆「ルントウ」：「私」が幼い頃、正月とともに過ごした同じ年頃の友人。

◆「ヤンおばさん」：「私」が幼い頃、筋向かいの豆腐屋で「豆腐屋小町」とよばれていた女性。

◆「ホンル」：……初対面の甥。

物語の構成

場面	場面の概要と展開
第一～第二の場面 (教) 冒頭 99 P 20 ℓ	<ul style="list-style-type: none"> ・「私」がかつて住んでいた家を明け渡すため、二十年ぶりに帰郷する。 ・母と甥のホンルに出迎えられる。
第三の場面 (教) 100 P 1 ℓ 103 P 11 ℓ	<ul style="list-style-type: none"> ・ルントウとともに正月を過ごした、幼き日の楽しい思い出。ルントウとはそれ以来一度も会っていないかった。

第四～第五の場面

(教) 103 P 12 ℓ
118 P 9 ℓ

・ヤンおばさん、そしてルントウとの再会。すっかり変わってしまった二人の、現在の様子。

第六の場面

(教) 110 P 10 ℓ～最後

・「若い世代」への思い、未来への「希望」など、さまざまな思いを抱えて故郷を離れる「私」。

読解のポイント

■ 人物の描写や情景描写に注目して、今と現在の変化を捉えよう。

○ ルントウの変化の例

「昔」「艶のいい丸顔」(教) 101 P 3 ℓ

「今」「今では黄ばんだ色」「深いしわ」(教) 106 P 2・3 ℓ

* 「聞き上手になろう」(教) 114～115 P

相手や話の展開に応じた質問でをして、相手の思いを引き出そう。

* 「論理の展開を整える」(教) 116 P

論理の展開に気をつけて、文章を推敲しよう。

ポイント チェック 次の空欄にあてはまる言葉を書き入れよう。

この作品は、大きく六つの場面に分けることができる。

に ② へ戻った「③」は(第一・二の場面)、幼い頃に出会い、と

にも楽しい日々を過ごした ④ のことを思い出す(第三の

場面)。しかし、久しぶりに再会した彼は、姿も心もすっかり

しまったようだった(第四・五の場面)。こうしてさまざまな思いを胸に、

「⑤」は故郷を離れるのだった(第六の場面)。

演習問題

1

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。



(2) 線①「ああ、これが二十年来、片時も忘れることのなかった故郷であろうか」について、次のそれぞれの問いに答えなさい。

□①「これ」が指している故郷の様子を表す一文を本文中から探し、その最初の五字を書き抜いて答えなさい。

□②この時の「私」の心情を表す言葉を、本文中から四字で書き抜いて答えなさい。

□③線②「私の覚えている故郷は、まるでこんなふうではなかった」とありますが、かつての故郷は、今と比べてどうだったと「私」は考えていますか。本文中から十字で書き抜いて答えなさい。

□④線③「言葉は失われてしまう」とは、どういうことを表していますか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 今見た故郷の印象を、言葉で言い表すことができないということ。

イ「私の覚えている故郷」があまりに美しいので、言い表す言葉が見つからないということ。

ウ「私の覚えている故郷」の具体的な様子が浮かんでこないということ。

エ「私の覚えている故郷」での、忘れていた嫌な思い出がよみがえってきたということ。

--

- (1) この文章の作者は誰ですか。また、現在のどこの国の出身ですか。それぞれ漢字二字で書いて答えなさい。

作者

--

国

--

(教) 98～99 P



- (5) 線①「今度の帰郷は決して楽しいものではない」とありますが、今度の帰郷の目的は何ですか。「古い家」「異郷の地」という言葉を用いて、書いて答えなさい。

--

- (6) 線②「屋根には一面に枯れ草のやれ茎が、↓説き明かし顔である」について、次のそれぞれの問いに答えなさい。

- ① ここに使われている表現技法として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 例置法 イ 擬人法
ウ 対句法 エ 体言止め

--

- ② ここに描かれている情景として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア すっかり荒れている家の様子。
イ 屋根の上の草の生き生きとした様子。
ウ 枯れ草をなびかせる涼しげな風の様子。
エ 家の持ち主のだらしない様子。

--

- (7) 線③「やるせない表情」とありますが、母がこのような表情を浮かべているのはなぜですか。二十字以内(句読点も字数に数えます)で書いて答えなさい。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

演習問題 2

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。



□(1) —線①「来た客はルントウである」とありますが、ルントウの姿や様子は、昔と比べてどうなっていましたか。簡潔に書いて答えなさい。

□(2) ルントウの姿や様子から「私」が感じたこととして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア ルントウが、病気のためにすっかり痩せ細ってしまったということ。
- イ ルントウは、厳しい労働で貧しい生活を支えているのだろうということ。
- ウ ルントウが、「私」との昔の思い出をすっかり忘れているということ。
- エ ルントウは、昔どおり勤勉に働いているのだということ。

□(3) —線②「数珠つなぎになって」は、「私」のどのような様子を表現していますか。二十字程度（句読点も字数に数えます）で書いて答えなさい。

20

□(4) —線③「喜びと寂しさの色が顔に現れた」とありますが、このときのルントウは、どのような行動をとっていますか。書いて答えなさい。



105 ~ 108 P

□ (5)

線④「私は身震いしたらしかった」から、「私」のどのような気持ち
がわかりますか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。
ア ルントウの姿が予想外にみすほらしかったことに驚いている。
イ ルントウが寂しそうにしている理由が理解できず不思議に思っている。
ウ ルントウの言葉があまりにも予想外だったので、衝撃を受けている。
エ ルントウの態度や言葉があまりに立派なので気おされている。

(6)

線⑤「悲しむべき厚い壁が、二人の間を隔ててしまったのを感じた」
について、次のそれぞれの問いに答えなさい。

①「私」は、ルントウのどのような態度、どのような言葉から「悲しむべき
厚い壁」を感じたのですか。それをまとめた次の文の A・B に入
る適切な言葉を、Aは六字、Bは三字で、本文中から書き抜いて答えな
さい。

〈ルントウの A 態度と、B 〉という言葉。〉

A	
B	

② この「悲しむべき厚い壁」が二人を隔てた結果、ルントウはどのように
ふるまったのですか。本文中から四字で書き抜いて答えなさい。

まとめの問題 **A**

● 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。



〔A〕が、〔B〕と重なったから。〕

〔2〕 線②「ルントウ」の昔の姿を言い表した言葉を、本文中から十五字以内で書き抜いて答えなさい。

〔3〕 線③「古い家はますます遠くなり、故郷の山や水もますます遠くなる」とありますが、この情景描写に反映されている事柄を書いて答えなさい。



□(1) 線①「私も、私の母も、はっと胸をつかれた」とありますが、それはなぜですか。次の文の A・B に入ら適切な言葉を、それぞれ十五字以内（読点も字数に数えます）で書いて答えなさい。

109 ~ 111 P

□(4) 線④「手製の偶像にすぎぬ」とは、どういうことですか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 自分自身の手で作ったみすばらしいものにすぎない。
- イ 自分自身が作り出し、勝手に信じているものにすぎない。
- ウ 昔使われていたが、今では全く使われなくなったものにすぎない。
- エ その辺に転がっている、ありふれたものにすぎない。

□(5) 線⑤「私の望むもの」の内容を、「若い世代」という言葉を用いて、書いて答えなさい。

□(6) 線⑥「それ」が指しているものを本文中から二字で書き抜いて答えなさい。

□(7) 線⑦「歩く人が多くなれば、それが道になるのだ」とありますが、作者は「希望」についてどのように考えているのですか。書いて答えなさい。

--	--	--	--

まとめの問題 **B**

● 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。



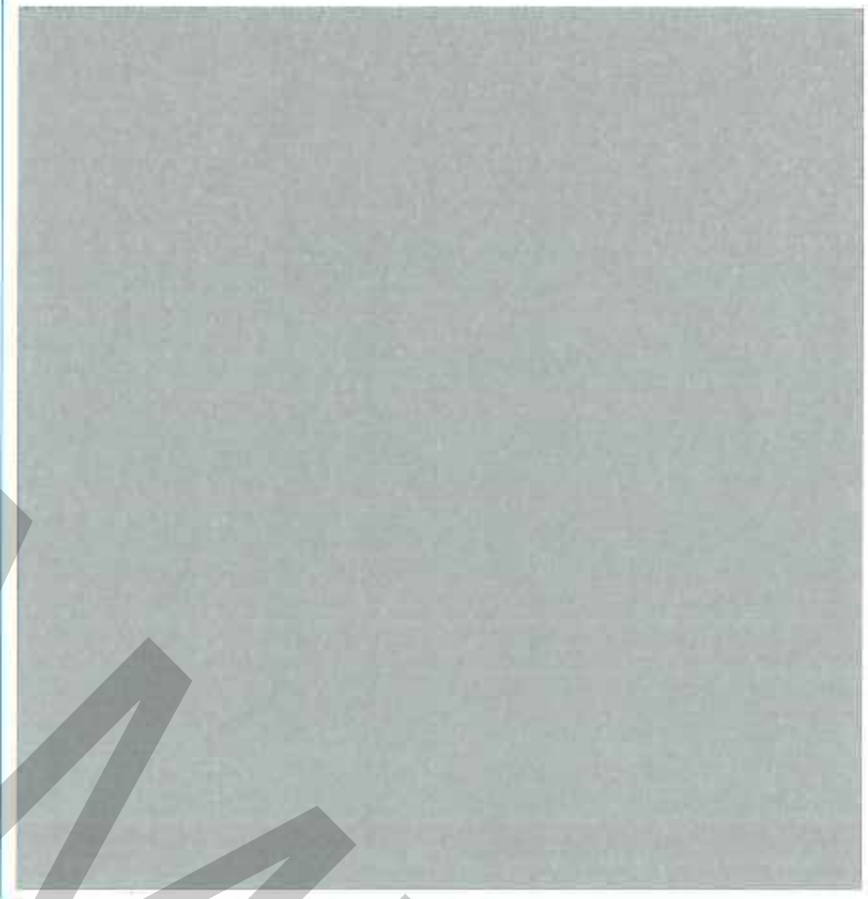
□ (2) 線①「私の記憶にあるレントウとは似もつかなかった」とありますが、現在のレントウはどのような風貌であると「私」は読み取りましたか。

三十字以内（句読点も字数に数えます）で書いて答えなさい。

□ (3) 線②「何かでせき止められたように、頭の中を駆け巡るだけで、口からは出なかった」とありますが、「私」が言葉をかけられなかったのはなぜですか。五十字以内（句読点も字数に数えます）で書いて答えなさい。

□ (4) 線③「喜びと寂しさの色が顔に現れた」とありますが、この「喜び」と「寂しさ」とは、どのようなものですか。それぞれ三十字以内（句読点も字数に数えます）で書いて答えなさい。

「喜び」



105 ~ 108 P

□(1) 本文は、どのような場面を描いたものですか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 兄弟が語り合う場面。
- イ 主人と徒者が対立する場面。
- ウ 旧友が再会する場面。
- エ 一家が団らんする場面。

「寂しさ」

□(5) 線④「他人行儀」とありますが、母はルントウのどのようなところを他人行儀と感じたのですか。四十字以内（句読点も字数に数えます）で、具体的に書いて答えなさい。

□(6) 線⑤「あの頃は子供で、何のわきまえもなく……」とありますが、ルントウは「私」への接し方についてどのように考えていますか。子供の頃と今とを比較しながら、四十五字以内（句読点も字数に数えます）で書いて答えなさい。
